

ジェンダーと（イン）ポライトネス： ステレオタイプ的見方を再生産していないか？

松村 瑞子

ジェンダーとポライトネスの関係については、Lakoff (1975)、Holmes (1995)、井出 (1985 ; 1997)、松村 (2001)、Mills (2003)、宇佐美 (2005)、因 (2006)、Suzuki (2007)、三牧 (2013) を始め、数多くの研究が行われている。

Holmes (1995) は、「女性は男性よりもポライトである」と結論付けた上で、誰が発話権をとって話すか、ヘッジやブースターの用法、褒めのストラテジー、謝罪のストラテジーについて、Brown and Levinson (1987) のポライトネス理論に基づいた量的分析を行い、この結論への証拠とした。

この Holmes (1995) の分析への再検討の必要性を論じるのが Mills (2003) である。Mills は、話し手、聞き手、コミュニケーションのモデルについての言語学的解釈の問題点、Brown and Levinson (1987) のポライトネス理論に関する問題点を明らかにし、これまで殆ど分析されてこなかったインポライトネスという観点からポライトネスについての議論を行った。次に、ジェンダーについての言語学的分析については、「女性は男性よりもポライトである」という仮定的なジェンダー・ステレオタイプとジェンダーについての理論的見解については明確に区別する必要があることを論じた。例えば、Holmes (1995) の議論について、「平均すると、女性は男性よりも理解や認識の向上につながりそうな種類の会話に相応しい文脈を作るのに優れているという十分な証拠がある」(217) など、自身の仮定的なジェンダー・ステレオタイプに基づいて議論を進めている部分があることが彼女の分析の問題であると指摘する。さらに、具体的な事例を分析することでジェンダーを単純に発話の産出や解釈を決定づける要因とみなすべきではないと論じた。

井出他(1985)は、女性の方が男性より丁寧な敬語をしようしているという先行研究の結果を踏まえ、何故女性は男性より丁寧な言語表現を用いるのかを解明しようと調査を行ったが、その結果は、働く男性と働く女性と主婦を比べると働く男性と働く女性の言語使用パターンにより多くの類似性が見られたというものであった。また大学生の娘をもつ主婦の1週間の会話を録音・文字化した資料の分析した結果、この女性は非常に高い丁寧度から非常に低い丁寧度の言語形式まで多様なレパートリーをもっていること、場面や相手が異なると使われ方のパターンも異なるが、同じ場面、同じ相手に対しても異なった丁寧度の言語形式が用いられており、固定化した使われ方のパターンとしては捉えられないことを明らかにした。さらに、井出(1997:11)は、Silverstein(1976, 1987)による言語機能の考え方、即ち「言語機能には指示的機能の他に非指示的機能があり、話し手がそれを使うことによって自分のアイデンティティを作り上げる」を引用しながら、日本語の敬語は、この非指示的な指標的な機能との捉え方でみるとうまく説明できるとした。

三牧(2013)は、スピーチレベル管理、話題管理、相互行為の分析の観点から初対面のコミュニケーションにおける談話レベルでのポライトネスを分析したものである。初対面に限った研究ではあるが、ジェンダーによる会話スタイルの相違についても明らかにしており、談話レベルでのジェンダーとポライトネスを議論する際に参考になる。

本発表では、先行研究で論じられたジェンダーとポライトネスについて簡単にまとめた後、自然会話中の具体例を分析していくことで、ジェンダーと(イン)ポライトネスの関係について、取り分けステレオタイプの見方が再生産されていないか、という問題を中心に議論した。

[参考文献]

- Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. (1987) *Politeness: Some universals of language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Holmes, Janet (1995) *Women, Men, and Politeness*. London: Longman Group UK Ltd.
- Lakoff, Robin (1975) *Language and Women's Place*. New York: Harper and Row.
- Mills, Sara (2003) *Gender and Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Silverstein, Michael (1976) "Shifters, Linguistic Categories, and Cultural Description," *Meaning*

- and Anthropology*. K. Basso and H. Selby (Eds.), Alburquerque: University of New Mexico Press, pp. 11-55.
- Suzuki, Toshihiko (2007) *A Pragmatic Approach to the Generation and Gender Gap in Japanese Politeness Strategies*. Tokyo: Hituzi Shobo.
- 井出祥子他 (1985) 『女性の敬語の言語形式と機能』, 文部省科学研究費研究成果報告書.
- _____ (1997) 「女性語の世界 — 女性語研究の新展開を求めて — 」, 『女性語の世界』 明治書院, pp. 1-14.
- 宇佐美まゆみ (2005) 「ジェンダーとポライトネス — 男性は女性よりポライトなのか — 」, 『日本語とジェンダー』 第5号, 日本語ジェンダー学会, pp. 1-12.
- 因京子 (2006) 「談話ストラテジーとしてのジェンダー標示形式」, 『日本語とジェンダー』 日本語ジェンダー学会編, 佐々木瑞枝監修, pp. 53-72.
- 松村瑞子 (2001) 「日本語の会話に見られる男女差」, 『比較社会文化』 第7号, 九州大学大学院比較社会文化学府, pp. 69-75.
- 三牧陽子 (2013) 『ポライトネスの談話分析 — 初対面コミュニケーションの姿としくみ』, 東京: くろしお出版.

(まつむら よしこ・九州大学教授)